

男女共同参画シリーズ その2

技術者として挑戦しつづける

Keep challenging as an engineer

1 技術士資格 ～キャリアの証明として～

私は入社以来、通信ネットワークのソフトウェア開発に携わり、数年前からは品質保証部門で品質を追い求めている。大学では、燃料電池の触媒の研究に明け暮れ、その系列の企業に勤めたいと考えていた。しかし当時、理系大卒女子を技術者として募集する企業は少なく、ソフトウェアという新たな領域への興味とともに現在の会社に就職を決めた。気が付けば、人生の半分以上をコンピュータやソフトウェアの進化とともに歩んでいる。

思い起こせば入社した頃に、男女雇用機会均等法が施行された。しかし、担当業務の内容には、男女差があったように記憶している。同期入社の男性は、開発の上流工程から参加していたが、私は、ドキュメントや品質データの整理、マニュアル作成などの工程を任されることが多かった。私自身がソフトウェア開発の素人であったことの他に、二つの要因に思い至る。ひとつは、結婚・出産退職の可能性のある女性に、どこまで仕事を任せるのがよいか男性上司は判断が難しかったであろうこと、もうひとつは、私自身が何をどの程度できるか、やる気があるかを示すことができていなかったのではないかとということである。

そこでチャンスに向き合い、できることを増やそうと考えた。直前のメンバー交替で初めての海外出張となった香港では、お客様技術部門の方々とひとりで対応した。担当分野も、開発支援システムから社会インフラ基幹システムまで広げた。

のちに、男女共同参画社会基本法が施行され、男女が対等の立場で能力を発揮し、公私を両立させていく取り組みが始まった。ここ数年は、幹部社員への女性登用が増え、私も課長職を経て、ひとつの組織を任されるようになった。しかし、やはり多くの男性幹部社員の中で、何か光るものを示し、実力を認めてもらうのには苦労した。

そこで、技術者として倫理観を持ち、技量を継続研鑽する、またプロジェクトマネジメントのキャリアを証明するひとつの方法として、情報工学科部門と総合技術監理部門の技術士になった。

2 学びの場 ～農作業からのヒント～

幹部社員になる前は、残業も多く、休日も仕事のことに想いを巡らせ、がむしゃらに取り組んだが、それを嫌だと思ったことはなかった。仕事でストレスをためないこと、会社での時間に自分らしさが出せること、お客様に喜んでいただけることが、会社生活も私生活も豊かにしてくれた。

そんな折、ひとつの転機があった。幹部社員になった年、父が他界し三人の娘に田畑が残った。長女の私は、田畑を維持していくことを決めた。毎週末、田舎で試行錯誤の農作業に取り組み、今や15年ほどのキャリアを積んだ。なんとか、おいしいお米や野菜、果物を一定量得られるようになったが、気まぐれな天候や鳥獣の行動は読み切れず、いまだに悩まされ、挑戦が続いている。



写真1 田舎の田んぼの風景

手作業で土をいじり、近所や農協の方に知恵をいただきながら、私たちなりのやり方を創り上げ改善を積み重ねてきた。その過程で、もともと会社員であった父が多くを考え試行していたことも知ることができた。また、事情が異なる三姉妹家族がそれぞれ気持ちよく農作業に取組めるように、作業方法や分担を工夫した。仕事とは直接関連性のない営みではあるが、幹部社員としての組織運営や異分野からの技術研鑽のヒントになっている。

3 知らされた力 ～活かせる組織へ～

弊社には、「女性リーダー育成プログラム」という、女性リーダー候補を対象に、ビジネス感覚やネットワーキングを育む研修がある。2016年度、私はメンターとして参加する機会をいただき、2チーム12名の成長を約半年間みてきた。社内の様々な部門から集まった彼女たちは、業務・年齢・職場でのポジションも様々である。そんな彼女たちが、ビジネス提案を創り上げていく中、私は、チーム運営や提案書の作り方をサポートした。



写真2 ビジネス創造のグループワーク

当時はメンターのお話を受けたものの、「なぜ女性だけで？」という疑問があった。私の経験では、女性だけを集めた研修はなかったし、受けたいと思わなかった。こんな疑問をもちつつ参加したが、彼女たちのものおじせずに社内外への調査に取り組むパワーのすごさや、データから方向性を導く際の着眼点、また、諸先輩からのアドバイスを真摯に受け止めて提案作成に取り組む一途な姿に感心した。女性だけのグループであったことが力を発揮できた要因であったのだろうか。それとも、彼女たち自身がもつ力をいつものように発揮できた結果なのだろうか。何れにしても、今回の研修で彼女たちの力を知らされたことは、メンターとして参加した大きな成果であった。そしてこの知らされた力を組織運営に活かすことにより会社をさらに活力あるものにしていきたいと感じた。また、彼女たちがこの研修で得た様々な経験を職場で形にできるようにサポートを続けることが、メンターを務めた私の役割だと感じた。彼女たちの提案で、研修後も数カ月ごとに「車座」を開催しテーマを決めて相互研鑽を継続している。

4 技術者として ～愚直に謙虚に～

技術士資格を名刺に入れてから、名刺交換の際、また、仕事をする中で、技術士として責任ある行動・判断をしなければいけないという自覚がとても大きくなったと感じている。特に「技術士倫理綱領」にある「公衆の安全、健康及び福利を最優先」、「公正な分析と判断に基づき、託された業務を誠実に履行」などは、三現主義で評価・対策し、お客様に製品・サービスを届けるゲートである品質保証部門の組織長としても、常に意識している。

2017年6月に「富士通技術士会」の副会長を拝命した。お声をかけていただいた驚きとともに、新たな領域へのチャンスをいただけたことに感謝している。本技術士会は、10名程度で設立されてから25年を経て300名を超えるまでになった。これまでの先輩方のご尽力に感謝するとともに、この25年を振り返り、これからも私たち技術者が力を発揮し、若手技術者や女性技術者が活躍できるフィールドを創っていくことが、私の新しいミッションのひとつであると感じている。

また、女性技術士を副会長に据え、富士通技術士会運営に男女共同参画を実践していることも大切に、今以上に技術士の知名度を高め頼りにされる組織にしていきたい。

会社生活で培ったことや私生活で経験したことを糧に、周りの変化を良く見聴きし、愚直に謙虚に技術と人に向き合い、マネジメント力を磨いて技術者として挑戦を続けていきたい。

男女共同参画推進委員会より

メンターとして、またイクボスとして女性技術者の良き理解者である小島さん。

自然の声も大切にされての挑戦。委員会も注目いたします。

小島 嘉津江 (こじま かつえ)
技術士(情報工学)／総合技術監理部門)

富士通(株)
ネットワークソリューション事業本部
フィールドエバリュエーション統括部長
e-mail : kojima.katsue@jp.fujitsu.com

